

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2391500077
法人名	ケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム いだか
訪問調査日	平成21年3月19日
評価確定日	平成21年4月16日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2391500077		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム いだか		
所在地	名古屋市名東区平和ヶ丘一丁目109番地 (電話) 052-769-6151		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】(平成21年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年5月14日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	19 人	常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	19,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年2月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	6名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	80 歳	最高	92 歳
協力医療機関名	医療法人敬生会 千種さんクリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路より1本奥に入った静かで緑豊かな住宅街にあり、小規模デイサービスを併設している。和風調の建物で間接照明を用いて光りが刺激とならないよう配慮したり、廊下にも椅子やベンチが置かれ落ち着いた雰囲気である。入居者は家庭的な雰囲気の中でそれぞれの特技、趣味を活かし裁縫、絵画、習字、生け花、お抹茶を楽しんだり、訪問時、玉ねぎやりんごを切って食事作りの手伝いをする姿が見られた。職員は「その人らしいゆったりと自由な暮らし」の実現に向け支援しており、開設より5年近く経過している。市内で法人は他にグループホーム、デイサービス、介護付き有料老人ホーム等も運営しており今後の相互交流が期待される。地域との関係づくりの必要性は常に感じており、今年度より開催の運営推進会議や自治会の回覧板を利用し一歩一歩慎重に築いていきたいと考えている。更なるサービスの向上に向け内部体制の強化も考慮されたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目は職員と話し合い、できることから改善していきたいと考えている。具体的には年4回の運営推進会議の開催やホーム便りの再開等を実施、ホームの実情を家族や地域の方々に知ってもらうよう努めた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に評価の意義を伝え、自己評価票を渡し全職員が取り組んだ。難しい項目もあったが日々の業務内容、思い、今後の展望等を記入していく中で職員は自己を振り返る機会となり、管理者は職員の率直な意見、考えを知り具体的な改善への第一歩となっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	6月より自治会長、自治会役員、千種さんクリニックメディカルワーカー、入居者家族、事務局が参加して年4回開催した。初年度なので会議の趣旨や内容説明、災害時対応、認知症、活動報告や行事予定等ホームを知ってもらうことに努めた。今後、今回の外部評価の報告、課題解決やサービス向上へ向け家族、地域の方々との意見交換、地域の情報収集、地域への情報発信の場として活用していきたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の利用はなく、面会時を家族とのコミュニケーションの機会とし、居室、共用空間等その方のご希望の場所に対応する等話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満は運営に反映させるよう努めている。今後家族との面談を年2回ほど開催していきたいと考えている。重要事項説明書には苦情相談窓口として国民健康保険団体連合会や名古屋市機関も明記している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩時や公園清掃時、ホーム前を通る人々に挨拶を心がけている。自治会に加入し今後回覧板をホームの行事案内等広報活動に利用していきたいと考えている。管理者や職員が自治会の公園清掃、その後喫茶店での交流会に参加し地域の方と顔馴染みの関係づくりに努めており、家庭菜園の野菜や果物を届けて下さる方もある。小学校での盆踊り、コミュニティーセンターでの踊りの練習に参加した。朗読会のボランティアの定期的訪問や中学生の1日体験学習を受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念に「ゆったりと、自由な暮らし」からはじまる9項目を掲げ開設当初からホーム独自の理念として継続している。画一的ケアでなく、個々の力を活かしその人らしい暮らしを目指し、ゆったりと穏やかに生きがいを持って過ごせるよう支援している。法人理念を基に作成され、地域に根ざしたホームを目指しているが理念への反映等見直しは未だされていない。</p>		<p>地域密着型サービスの果たすべき役割を理解し、認識できるよう理念について職員間で話し合い見直しについても検討されることを期待したい。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を職員ロッカールームや各ユニットの台所に掲示している。昨年理念の再認識やいつでも振り返ることができるよう職員全員に文書で配布した。管理者は折を見て話しの中で理念の意識づけを図り、入居者一人ひとりのリズムやペースに合わせたゆったりとした暮らしの実現を目指している。家族には入居時に説明し、地域の方には散歩や町内の公園清掃時にホームのケアについて話し理解を得るよう努めている。</p>		
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>散歩時や公園清掃時、ホーム前を通る人々に挨拶を心がけている。自治会に加入し今後回覧板をホームの行事案内等広報活動に利用していきたいと考えている。管理者や職員が自治会の公園清掃、その後喫茶店での交流会に参加し地域の方と顔馴染みの関係づくりに努めており、家庭菜園の野菜や果物を届けて下さる方もある。小学校での盆踊り、コミュニティセンターでの踊りの練習に参加した。朗読会のボランティアの定期的訪問や中学生の1日体験学習を受け入れている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員に評価の意義を伝え自己評価票を渡し全職員が取り組んだ。難しい項目もあったが日々の業務内容、思い、今後の展望等を記入していく中で職員は自己を振り返る機会となり、管理者は職員の率直な意見、考えを知り、具体的な改善への第一歩となっている。運営推進会議の開催、ホーム便りの発行再開等前年度の改善項目は職員と話し合いできるところから取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	6月より自治会長、自治会役員、千種さんクリニックメディカルワーカー、入居者家族、事務局が参加して年4回開催した。初年度なので会議の趣旨や内容説明、災害時対応、認知症、活動報告や行事予定等ホームを知ってもらうことに努めた。今後、今回の外部評価の報告、課題解決やサービス向上へ向け家族、地域の方々との意見交換、地域の情報収集、地域への情報発信の場として活用していきたいと考えている。		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	名東区事業者連絡会に加入し、定期的に開かれる会合で管理者は区役所職員より情報を入手し意見交換等で顔馴染みの関係づくりに努めている。今年度協働して解決しなければならぬ困難事例はなく、区役所の担当窓口等行政へホームからの定期的、積極的な情報提供、現状把握へ向けての取り組みは行なわれていない。		市町村担当者へホームの考え方、運営や現場の実情を積極的に伝える機会を設け、実態を共有しながら、問題解決に向け協議、共に取り組んで行くことが大切である。いつでも相談できる関係づくり、サービスの質の向上のためにも情報提供を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月担当職員が一人ひとりの暮らしぶりや近況を手紙に記し、都度行事等の写真や預かり金の出納明細書、領収書等も添えて家族へ送付している。家族の面会時に口頭でホームでの様子、健康状態、職員の異動を伝え、特に健康状態に変化があれば管理者が電話等で速やかに連絡し信頼関係を築いている。年4回ホーム便り「いだけ便り」を発行し、写真付きで毎月の様子を伝えたり職員の紹介をした。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	意見箱の利用はなく、面会時を家族とのコミュニケーションの機会とし、居室、共用空間等その方のご希望の場所に対応する等話しやすい環境づくりに努め、家族の意見、疑問、不満は運営に反映させるよう努めている。今後家族との面談を年2回ほど開催していきたいと考えている。重要事項説明書には苦情相談窓口として国民健康保険団体連合会や名古屋市機関も明記している。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の異動や離職による入居者のダメージを最小限に抑えるため、馴染みの職員がフォローに入る等配慮をしている。時にはケア体制に考慮して職員がユニット間を移動することもあるが入居者、職員双方にスムーズに受け入れられている。離職について入居者には伝えない。新人職員は個々に応じた期間、先輩職員の実地指導をうけ入居者と顔馴染みの関係づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修やテレビ番組等の研修情報はロッカールームに掲示し伝えているが十分な受講までには至っていない。研修内容を口頭で報告し、職員間で話し合い居室間違いの防止に扉にテープで大きく苗字を貼ったり、「ほうれんそう」の徹底に掲示板を使用することで業務の計画性が高まったりと講習内容を具体的に実践に活かしている。ケアに対する課題は各ユニットで話し合い欠席者には報告書や資料を回覧し共有している。救急救命の講習会や職員のスキルアップ、介護の質向上に向けた勉強会や講習会等の育成教育も取り組みたいと思っている。</p>		<p>職員各自の立場、経験に応じた段階的な学びの必要性を理解し、研修会の参加やホーム内で勉強会の時間を確保されたい。学んだことを職員間で共有することで新たな気づきやコミュニケーションが図られ、質の確保、やる気や向上心の高揚が期待されることから今後の取り組みに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>名東区事業者連絡会に加入し管理者が入所、通所部会での会議に参加している。愛知県認知症グループホーム連絡協議会、名古屋市認知症グループホーム協議会に加入し情報は得ている。管理者が他のホームを訪問することはあるが、名東区内でグループホームのネットワークはなく他事業所との意見交換、情報交換はされていない。建物内のデイサービスへ行くことはあるが職員や入居者が同法人内の各種施設を訪問したり、行事に参加したりといった交流は図られていない。</p>		<p>管理者や職員が同業者との交流の機会を通じて、情報交換やサービスの質の向上に努められることに期待したい。また、市内にある法人内の各種施設と連携して職員間の交流が図られるような働きかけにも期待したい。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入居は実施していないが、入居前に本人の生活状況を職員に伝え、特に配慮が必要と思われる場合は家族、職員で申し送りを行い準備している。生活歴より趣味や志向を活かし「好きなこと」を取り入れ「ここにいてもいいな」と思ってもらえるように努めている。本人の安心が保たれるよう馴染みの職員が対応したり、本人との関わりの必要性を感じれば家族に面会や電話での会話等を依頼したり、逆に疎外感を与えないよう家族に距離を置いてもらう等状況に応じて工夫している。契約時に管理者は自宅を訪れ様々な角度から情報を得て信頼関係の構築を図っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>三餐を共にし、生活活動全般（掃除、料理、洗濯等）や行事を通じて楽しみを共有し、介護される一方で、共に暮らす者として入居者に尊敬の気持ちを持ち人格を尊重したサービスに心がけている。日々の関わりの中で職員が手を出し過ぎず上手く見守り、「ありがとう」と感謝されたり「大変だね」と労りの言葉をかけてもらうこともある。人生相談や悩みを話すことと人生の先輩として入居者よりとて的確なアドバイスを受けることがある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族よりの聞き取りや入居後の関わりを通じて希望や意向等の把握をしている。把握が困難な場合には家族に協力してもらったり、職員がつぶやきや表情、態度、行動を観察し汲み取る努力をしている。入居者の立場になって考え、複数の選択肢を示したり、関心や興味を表したことへは焦らず意欲を引き出す工夫をしている。また、職員各々の視点の違いによる情報収集も役立っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活の中で担当職員は入居者の思いや意向を聞き、家族には面談時に聞いて確認している。月に1回のミーティングでケアカンファレンスを行ない情報の共有を図っている。計画作成担当者はセンター方式のアセスメントシートや職員の意見や気づき、アイデアなどを参考に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>家族、担当職員、管理者、介護支援専門員などが参加してサービス担当者会議を行なっている。担当職員は「私の姿と気持ちシート」また、「ご家族様特記事項」を記入している。入居者の状態に変化がある時は業務連絡ノートに記入し、職員は情報を共有している。長期目標6カ月、短期目標3カ月となっているが、ここしばらく介護計画の見直しがされていない。</p>		<p>ミーティングでケアカンファレンスを行ない、入居者のケアについて話し合っている。また、担当職員はセンター方式のシートを使用したり入居者の心身の状態の変化も記載している。今後はそれらを参考に介護計画に対して見直し継続かの評価を行い記録し、介護計画が3カ月ごとに見直しされることを期待したい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を受け看護師による健康管理を24時間体制で受けている。週に2回の訪問マッサージや月に1回の訪問美容を利用している入居者がいる。必要に応じて訪問歯科も来てくれる。病院の受診は基本的に家族にお願いしているが、無理な時はホームで対応している。一人ひとりの希望に添えるように買い物や美容院などの個別支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を協力医療機関に変更の願いをし、2週間に1回の訪問診療がある。また、毎週看護師の訪問もあり入居者の健康チェックを行なっている。家族の付き添いで認知症専門医を受診している入居者もあり、受診結果の報告を家族から聞き診療記録に記入している。重要な事は連絡ノートにも記載し情報を共有している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」があり、入居時に家族に説明し同意を得ている。その中にホーム内での訪問診療で可能な限り重度化にも対応していくが、看取りに関しては行なわないものとする「看取りに関する指針」が記載されている。また、「重篤時・緊急時の確認」書にて家族に希望を聞いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりの誇りやプライドを損ねないよう言葉遣いに気をつけている。職員同士が集まり申し送りを行なう時は、入居者の前で行なわないよう配慮している。日常記載する記録は居間で入居者を見守りながら記入している。書類などはユニット外に持ち出さないよう徹底している。また、不要になった書類などはシュレッダーにかけ処分している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな1日の流れはあるが、職員は入居者の顔を見て気持ちを汲み取りながら介護するよう心がけている。食事時間の2時間後ぐらいまでは朝食の作り置きをしたり、自分の好きなことや楽しみごとを居室でする方もある。起床、食事、就寝などは体調や精神状態、一人ひとりのペースを大切に希望に添ったその人らしさの実現に向け支援しているが、職員側のペースになってしまうこともある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を作成する時、入居者に「何が食べたい？」と聞いて職員が立てている。調理、盛り付け、片付けなど入居者と共に行なっている。訪問時、りんごや玉ねぎの皮むきをしたり、テーブルを拭いて箸を並べている入居者の姿がうかがえた。月に1回、回転寿司や和食などを食べに出かけたり、時には出前を取ることもあり入居者の楽しみになっている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>2日に1回、10時から夕方間で本人の希望の時間に入浴している。リフトが設置されているので介助が大変な方でも安心して入浴することができる。入浴剤や入浴玩具を入れ寛いだ気分で楽しんで入浴できるよう支援している。また、季節感を大切に柚子湯や菖蒲湯なども行なっている。入浴拒否の方には無理強いせず声かけに工夫しながら支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>本人の好きなこと、できることはできる限り行なってもらおう職員は声をかけお願いしている。居間に職員の手作りカレンダーがあり、気がついた入居者が日にちを消したり、めくったりする役割がある。入居者の得意分野（お花を活ける、抹茶を点てる、書初めを書くなど）で力を発揮してもらえよう支援している。夕食時にビールを楽しむ方もいる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は入居者の気分や体調に応じて散歩に出かけている。入居者の希望に添えるように散歩や買い物、ドライブなどの個別対応も行なっている。外出行事では外食や季節ごとにお花見や日泰寺の参拝などに出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>防犯面から21時30分から朝7時30分までは玄関を施錠しているが、日中は自由に入出入りすることができる。2階ユニットのフロア入口は出るとすぐ階段があり安全のため扉は施錠している。入居者が外出しそうな様子があれば、さりげなく声をかけ気を逸らしたり、一緒に付いて行くなど気分転換を図っている。夜間居室に鍵をかける入居者が数名いる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>昨年5月に夜間を想定して初期消火についてのシュミレーションによる説明会を職員7名で行なった。入居者が参加しての避難訓練は実施されていない。また、非常時に備えての備蓄品の準備もされていない。消火器などの設備総合点検は業者に依頼して行なっている。</p>		<p>いつ起こるか分からない災害に備えて、慌てず確実に避難誘導ができるように、入居者と職員と一緒に避難訓練を行うことを期待したい。また、地域への協力や働きかけと非常用食料や備品などの準備をされることにも期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量については記録し職員は情報を共有している。水分摂取量は1日1,500mlを目安に毎食事、おやつ、入浴後、夜(7時から7時30分頃)などこまめに補給し飲んでもらうよう気をつけている。食事の形態もきざみ食など個別に対応している。体重測定は2カ月に1回行い健康管理に努めている。</p>		<p>献立に入居者の好みを取り入れ職員はいろいろ考えて作成している。また、入居者の状態や便秘予防にも配慮しているので、今後は定期的に栄養の専門的な観点からチェックしてもらうことを期待したい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間の照明は間接照明で光がやわらかくなっている。壁には入居者の写真と今年の抱負、行事の写真(誕生会、日泰寺参拝等)、ひな祭りのちぎり絵などが飾られている。ベランダにはベンチや花壇がありチューリップやムスカリなど季節の花が咲いている。台所が対面式になっているので、職員は調理しながら入居者と会話をしたり見守りをする事ができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室の入り口には木の表札と自作の作品など飾っている。1階ユニットではより自分の部屋が分かるように、扉に色と高さを変えて2箇所大きく苗字が貼ってある。居室にある洗面台で洗顔や歯磨きができる。タンスや鏡台、ベッド、テレビなど馴染みの物を置き、壁にはひ孫からの似顔絵、絵手紙、自作の作品など飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。